病に負けず健やかに生きるために

# 「子宮がん」を知ろう

近年、増加傾向にある婦人科がん。そんな中、一部の婦人科がんに対する《ロボット支援内視鏡手術》が保険適用になるなど、婦人科がんに対する治療のアプローチも変化している。今回は、鹿児島大学医学部産婦人科の小林裕明教授に、子宮がんの最新治療法などを聞いた。

―婦人科がんとは？

婦人科がんには主に「子宮がん（子宮頸がん・子宮体がん）」、「卵巣がん」があります。子宮頸がんは子宮の足側の子宮頸部に、子宮体がんは頭側の子宮体部に、卵巣がんは子宮の両脇の卵巣にできるがんです。

厚生労働省の統計によると、罹患率の高い婦人科がんは、順に乳がん・子宮がん・卵巣がんで、いずれのがんも増加傾向にあります。

―子宮がんの治療について教えてください。

子宮頸がんは、性交渉によりＨＰＶ（ヒトパピローマウイルス）に持続感染した細胞が悪性に変化することが原因で、異形成や上皮内がんなどの前がん状態から、奥へと根を下ろす浸潤がんへと進行します。前がん状態であれば、その部位だけ切り取る円錐切除術などで済むことが多いので、妊娠・出産も可能です。

しかし、浸潤がんとなると、子宮の摘出が基本で、進行度により周囲の靭帯や腟壁も摘出することになり、妊娠ができなくなります。

一方、子宮体がんは、前がん状態であればホルモン療法で治療し、子宮を温存することも可能ですが、浸潤している場合は子宮に加えて両側の卵巣もとります。

これらの手術は、これまで開腹手術が一般的でしたが、最近は腹腔鏡手術が普及しています。

―《ロボット支援内視鏡手術》が保険適用になりましたが、どのようなことが期待されますか？

従来の泌尿器科の術式に加え2018年4月から、他の外科手術に関しても、腹腔鏡手術支援ロボットによる内視鏡手術が、まだ一部ではありますが、保険適用になりました。

婦人科系では、良性子宮疾患に対する単純子宮全摘出術とそれに両側卵巣と骨盤リンパ節の切除を加えた低リスク子宮体がん手術に適用されました。腹腔鏡と同じ傷痕でより高度な手術が可能なロボット支援手術は、がん手術でも手術時の出血量が減少し、入院期間が短縮されます。

ロボット手術は高難度医療技術であり、保険診療できるのは厚生労働省の認定を受けた施設だけですが、今後順次増えていくと思われます。（左表参照）

手術支援ロボットは、上腹部の手術も必要な高リスク子宮体がんの手術や、より高難度な子宮頸がん手術でこそ力を発揮しますが、まだ保険適用外です。前者に関しては、私費臨床試験として、後者に関しては先進医療として、一部の施設で受けられます。（左表参照）

―妊娠・出産の可能性を残す治療法について

若年化が進む子宮頸がんには、妊孕性（妊娠できる能力）を温存する広汎子宮頸部摘出術という手術法があります。未出産の女性が子宮を失い妊娠できなくなることを減らそうとするものです。

私自身は２００５年より開腹で開始し（当時２施設）、現在では国内70程の施設で行なわれるようになりましたが、ロボット手術の場合は、国内数施設が私費臨床試験として行っているのみです。（左表参照）

ただ、術後妊娠しても早産しやすいなど、リスクを伴う高難度手術ですので、医師の説明を受けて十分な理解のもと希望してください。

―これからの展望をお聞かせください。

現在、アメリカでは子宮がんの85％以上がロボット手術であるのに対し、日本で行なっている婦人科施設はまだ１００に満たないのが現状です。これに対し私たちは、手術を見学できる施設と手術を指導できる専門医を増やしながら、学会などを通じて、安全にロボット手術を早期普及させることに努めています。

鹿児島大学医学部 産婦人科 教授　小林 裕明氏

S60.3　九州大学医学部卒業
H 3.4　カナダ・サニーブルックヘルスサイエンスセンター癌研究部門留学
H21.4　九州大学大学院医学研究院 生殖病態生理学産婦人科 准教授
H28.4　鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 生殖病態生理学産婦人科 教授

## 婦人科ロボット手術の各術式を受けられる医療施設

- 低リスク子宮体がんロボット手術（骨盤部の手術のみで可）を保険適用手術として受けられる施設
  **国内20施設程、九州では鹿児島大**
- 高リスク子宮体がんロボット手術（骨盤部の手術に加え、上腹部の手術も必要）を私費臨床試験として受けられる施設
  **国内2施設／鹿児島大、京都大**
- 子宮頸がんロボット広汎子宮全摘出術を先進医療として受けられる施設
  **国内14施設、九州では鹿児島大**
- 妊孕性温存を希望する若年子宮頸がんに対するロボット広汎子宮頸部摘出術を私費臨床試験として受けられる施設
  **国内3施設／鹿児島大、京都大、倉敷成人病センター**
- ダヴィンチ手術のライセンスを取るための見学施設として認定された施設
  **国内4施設／ダヴィンチXi機器：鹿児島大、東京医科大**
  **ダヴィンチS/Si機器：倉敷成人病センター**
  **三重大**

以上 平成30年12月現在